



# 福島原子力事故関連情報アーカイブ

Fukushima Nuclear Accident Archive

Title	放射能リスクコミュニケーションに影響する心理インパクトの推定
Alternative_Title	Estimating psychological impact on radiation risk communication
Author(s)	大谷 浩樹(帝京大学), 丸 勝彦(帝京大学), 西畑 俊祐(帝京大学), 下津 雄亮(帝京大学), 多田 一輝(帝京大学), 黒坂 勇貴(帝京大学) Otani, Hiroki(Teikyo Univ.); Maru, Katsuhiko(Teikyo Univ.); Nishihata, Shunsuke(Teikyo Univ.); Shimotsu, Yusuke(Teikyo Univ.); Tada, Kazuki(Teikyo Univ.); Kurosaka, Yuki(Teikyo Univ.)
Citation	第 10 回環境放射能除染研究発表会要旨集, p.78 The 10th Workshop of Remediation of Radioactive Contamination in Environment
Subject	ポスターセッション 3 : 生活環境の回復
Text Version	Publisher
URL	<a href="https://f-archive.jaea.go.jp/dspace/handle/faa/230629">https://f-archive.jaea.go.jp/dspace/handle/faa/230629</a>
Right	© 2021 Author
Notes	禁無断転載 All rights reserved. 「第 10 回環境放射能除染研究発表会要旨集」のデータであり、発表内容に変更がある場合があります。 学会は発表の機会を提供しているもので、内容に含まれる技術や研究の成果について保証しているものではないことをお断りいたします。



## 放射能リスクコミュニケーションに影響する心理インパクトの推定

大谷浩樹、丸 勝彦、西畑俊祐、下津雄亮、多田一輝、黒坂勇貴  
 帝京大学 医療技術学部 診療放射線学科

## 1. はじめに

放射能に関するリスクコミュニケーションにおいて専門的知識を共有することは必要であるが、心理的な捉え方によりそれぞれの対応が異なる。放射能に対する正負のイメージによって意思疎通に影響がおよぶことがある。本研究の目的は、放射能に関するリスクコミュニケーションにおいて、プロスペクト理論の適用を目指した心理インパクトを推定することである。

## 2. 研究方法

プロスペクト理論は人の感覚として「損」と「得」のインパクトを価値関数として数値化したもので、人の心理を重視した新しい経済学とした行動経済学で代表されるものである。カーネマンによると損のインパクトは得に対して約2.25倍との報告がある。この心理インパクトは放射能に対しても顕著であると思われる。原発事故後の放射線・放射能に関するNHK番組アーカイブス学術利用にて、出演者の言葉のナラティブ・ストーリー分析を行い、ネガティブとポジティブな言葉を抽出した。そして、番組ごとに言葉の数の比率を算出し心理インパクトの推定を行った。NHK番組を研究に用いる場合の倫理的配慮は、NHK番組制作時および放送時において出演者へなされており、同時に学術利用トライアルとしての使用許可を得ている。

## 3. 研究結果および考察

ポジティブに対するネガティブの心理インパクトの平均は2.28倍であった。しかし、その倍率の幅は、およそ1倍から4倍とばらつきが見られた。その一例を表1に示し、心理インパクト倍率および番組概要を併記した。生活が変化した原発事故後であっても、故郷への思いなど精神的な支えがある場合に心理インパクトが低くなる傾向が現れた。そして、生活の現状を文字などの形にする場合や集会などで複数の人々が意見を出し合う場合などにおいて、心理インパクトの増加となった。これにより自分の思いをあらためて文字にすることや他者との同調によって不安感が増すと考えられた。

表1 心理インパクト倍率と番組概要

番組名	番組概要	ネガティブ数	ポジティブ数	心理インパクト倍率
(20140308) いつか来る日のために ～まだ先が見えない～	高齢女性が放射能汚染された故郷を思う日々を追ったドキュメント。先が見えない中でも故郷で暮らした日々を忘れない姿が印象的である。	9	8	1.13
(20120324) 故郷か移住か ～原発避難者たちの決断～	原発事故から1年が経過し、避難者している高齢者、若者、自治体職員たちの帰還が移住かの苦悩を追った。	50	21	2.38
(20130719) ドキュメント72時間 最後の避難所から	埼玉県加須市へ避難した人々の苦悩の日々と希望の心を追った。	11	4	2.75
(20150324) ドキュメンタリー「ずっと言えなかった～福島 親子の手紙～」	原発事故後に変化して親子関係において、言えなかった思いを手紙に綴った。	8	2	4.00
(20120805) 福島のメル友へ 長崎の被爆者より	福島の高校生と長崎の被爆者とのメール通した交流で互いに影響し合う姿を描いた。	34	8	4.25

## 4. まとめ

本研究により、放射能に対するポジティブとネガティブの言葉を抽出することで心理インパクトの推定を行うことができた。そして、ネガティブな思いのインパクトが強くなることを明らかにしたことによってリスクコミュニケーションの一助となった。

## 5. 参考文献

- 1) 竹村和久：感情と経済行動の意思決定：－プロスペクト理論と神経経済学からの展望－，マーケティングジャーナル 35巻 4号 p.6-26, 2016年
- 2) 遠藤利彦：両刃なる情動－合理性と非合理性のあいだに在るもの，情動と意志決定 p.93-131, 2015年
- 3) 大平英樹：感情心理学・入門 有斐閣アルマ 2010年